

名古屋大学	正会員	○ 植下 協
名古屋大学	正会員	河上 省吾
名古屋大学	正会員	大東 憲二

1. まえがき

土木学会では、昭和23年 6月に、学会内に土木用語委員会を設け、戦後における土木工学用語標準化の作業を行ない、その成果を、昭和29年に、「学術用語集，土木工学編」として出版した。

その後、30年余を経た今日、その見直し作業が必要であることから、本年、土木学会内に土木工学用語委員会（委員長：埼玉大学久保慶三郎教授）が設けられ、その作業グループの一つとして、道路工学小委員会（主査：名古屋大学植下協）が設けられ、作業を開始しつつある。

道路工学分野については、日本道路協会が昭和52年 1月に「道路用語辞典」を出版し、昭和60年 1月に「第2版道路用語辞典」を出版している。

土木工学用語委員会道路工学小委員会としては、この「第2版道路用語辞典」の編纂委員会の井上廣胤氏とその幹事長飯島尚氏に委員参加していただき、意見をいただきながら名古屋大学での原案作りを行なっている。

まだ、十分に吟味した作業結果を示し得る段階ではないが、土木学会における道路工学用語の標準化という作業の性格上、早い時点で、土木学会内の道路工学専門家の方々と意志疎通し得る機会を作るべきであると考え、現段階における作業状況を紹介することとした。

2. 道路工学用語標準化作業の進め方

土木工学用語委員会道路工学小委員会は、最初原案段階では、その原案作成のための機動性と上記日本道路協会との関係重視の視点から、とりあえず、井上廣胤氏、飯島尚氏、河上省吾氏、植下協の4名で活動を開始している。委員会の最初原案作りは、名古屋大学の植下研究室で行ないつつある。

その最初の作業は、上記「学術用語集，土木工学編」（昭和29年）の中に採録されている道路工学関係の用語で、

(1) そのまま標準用語として残してよいもの、(2) 今日の時点では標準用語として不要であるもの、(3) 今日では修正をして残すべきものに分類することである。この作業は、上記「第2版道路用語辞典」を参照した。

今後の作業としては、上記作業で残される標準用語に、今回新たに追加すべき標準用語を提案することである。9月の時点では、新しく追加すべき標準用語の案も示し得るものと考えているが、この概要では、「学術用語集，土木工学編」（昭和29年）の範囲での作業状況について示しておきたい。

3. 「学術用語集，土木工学編」（昭和29年）の道路工学用語でそのまま残すもの（用語集掲載順）

アーケード歩道、案内標識、安全地帯、安全島、アスファルト舗装、アスファルトマスチック、アスファルトミキサ、アスファルト乳剤、アスファルトプラント、アスファルトセメント、防雪柵、ブローンアスファルト、CBR試験、段切り、道路、道路網、道路ローラ、道路照明、道路用地、土取場、ガードレール、街きょ、街路、街路網、街路照明、街路樹、張芝工、歩道、歩道ブラケット、歩道荷重、舗装、舗装版、舗装破砕機、踏切警報機、踏切遮断機、踏切予告標、表面処理、一方交通、一方交通路、観光道路、幹線道路、緩速車線、緩和曲線、緩和接線、片勾配、カットバックアスファルト、建築限界、切取り、公道、国道、コンクリート舗装仕上機、跨線橋、硬質アスファルト、高速道路、交通広場、交通起点、交通量、交通量調査、交通流、交通終点、交通出入量調査、交通事故、曲線長、局地交通、距離標、マカダムローラー、目地、目地材、木塊舗装、軟質アスファルト、横断歩道、横断形状、横断勾配、追越し禁止、バッティング、バーバー、ボットホール、プライマー、レーキ、歴青材料、れんが舗装、立体交差、路外駐車、ロックアスファルト、路面排水、路線、路線選定、路床、路床土、路頂、再舗装、制動荷重、制動距離、石塊舗装、セメントコンクリート舗装、私道、シールコート、敷石舗装、視距、伸縮目地、四層交差、指示標識、速度制限、速度制限標識、隅切り、車道、車道幅員、車両交通、車線、車線分離帯、車線幅、車軸荷重、植樹帯、収縮目地、待避所、高さ制限、タンデムローラ、地下道、地下排水、地下埋設物、取付け、取付け道路、通過交通、町村道、駐車、駐車禁止、駐車帯、駐

車場，遊歩道，有料道路，砂利道，除雪ブラウ

4. 「学術用語集，土木工学編」(昭和29年)の道路工学用語で標準用語から除外してよいもの(案)

安全縁石，安全視距，安全側線，段違い道路，田園道路，道路幅広げ機，道路クラスト，同時式〔交通整理〕，沿岸道路，街路系統，街路境界線，被覆，歩道縦げた，歩行者通行止め，本通り，舗設，舗設工，放射路線，補助街路，踏切警報ベル，踏切接近標，踏切取付，表面被覆，回転半径，幹線街路，環状路線，経済勾配，霧信号，勾配緩和，コンクリート舗装，コンクリート舗装振動機，高路交差，屈折禁止，目つぶし，目地仕上げ，見通し距離，密結合層，無賃道路，年間通過トン数，荷車通行止め，乗入れ道路，落石止め，歴青コンクリート，歴青マスチック，歴青プラント，歴青セメント，れんが舗装道，路面ならし機，路面のうねり，路面仕上げ機，路面抵抗，路線価，路程計，細粒式土壌安定道路，生産道路，セメントモルタルクッション，市街道路，粗結合層，速度制限解除，車線分離，車線分離島，斜線街路，車側間隔，諸車通行止め，タールマカダム舗装，通り抜け禁止，通行止め，右折禁止，わだち，自動閉そく信号機，軸重，自動車通行止め，徐行標，上置式

5. 「学術用語集，土木工学編」(昭和29年)の道路工学用語で修正して残すもの(案)

アスファルトマカダム舗装(舗装をとる)，バインダー(→結合材)，坂路(→ランプ)，ハヤビン(→ハヤビンカーブ)，被覆層(→薄層舗装)，舗装用タール(→舗装タール)，放射街路(→放射道路)，補助基層(→下層路盤)，府県道(→都道府県道)，副道(→バイパス)，踏切(→踏切道)，踏切標(→踏切標識)，標識(→道路標識)，表層(→摩耗層)，板張舗装(→木塊舗装)，板石舗装(いたいしほそう→ばんせきほそう)，環状街路(→環状道路)，結合層(→基層)，禁止標識(→禁止標識)，基層(→上層路盤)，公園道路(=パークウェイ=高速公園道路，いずれを採用?)，混合材(混和材料，混和材，混和剤，いずれを採用?)，高速公園道路(前出)，交通標識(→道路標識)，交通能力(→交通容量)，交通流化(→導流化)，交通流線(→交通動線)，交通整理(→交通制御)，曲率半径(→曲線半径)，局地街路(→局地道路)，マカダム道(→マカダム工法)，回り道(→迂回路)，目つぶし材(→目つぶし骨材)，水締めマカダム道(→水締めマカダム)，二層街路(→二層式道路)，レーキアスファルト(?)，歴青舗装道(→歴青舗装)，歴青マカダム舗装(→歴青マカダム)，路面標識(→路面標示)，路側(→路側帯)，ロータリー広場(→ロータリー)，ロータリー式(→ロータリー型インターチェンジ)，流出交通(→外向交通)，細街路(→区画街路)，細粒式(→細粒度アスファルトコンクリート)，制動(→制動停止距離)，市道(→市町村道)，指導標識(→規制標識)，シートアスファルト舗装(→シートアスファルト)，真空コンクリート(→真空コンクリート工法)，伸縮縦目地(→縦目地)，伸縮横目地(→横目地)，浸出(→ブリージング)，ソイルセメント道路(→セメント安定処理)，粗粒式(→粗粒度アスファルトコンクリート)，車両計重機(→車両重量計)，車線分離線(→車線境界線)，小舗石舗装(→舗石舗装)，テルフォードマカダム(→テルフォード基礎)，透入法(→浸透式工法)，輪掘れ(→わだち掘れ)

6. あとがき

道路工学の標準用語一覧表の案ができた段階で、日本道路協会機関誌「道路」にも、その案を示し、道路工学関係者の合意を得てゆきたいと考えている。

お気づきの点や御意見等があれば、道路工学小委員会の委員または土木学会編集課の土木工学用語委員会事務局担当者にご連絡いただければ幸いです。なお、交通計画・交通工学等の分野については、土木計画等小委員会(主査：東京大学中村英夫教授)が担当して下さい。

参考文献

- 1) 青戸邦夫：「学術用語集，土木工学編」の改訂・増補の方針について，昭和59年11月28日，
- 2) 青戸邦夫：学術用語の標準化と「常用漢字表」の運用，ドキュメンテーション研究，33(8)，369-376，昭和58年 8月。